

愛称：ワンプレートランチ グローバル3資産ファンド

マンスリー・レポート

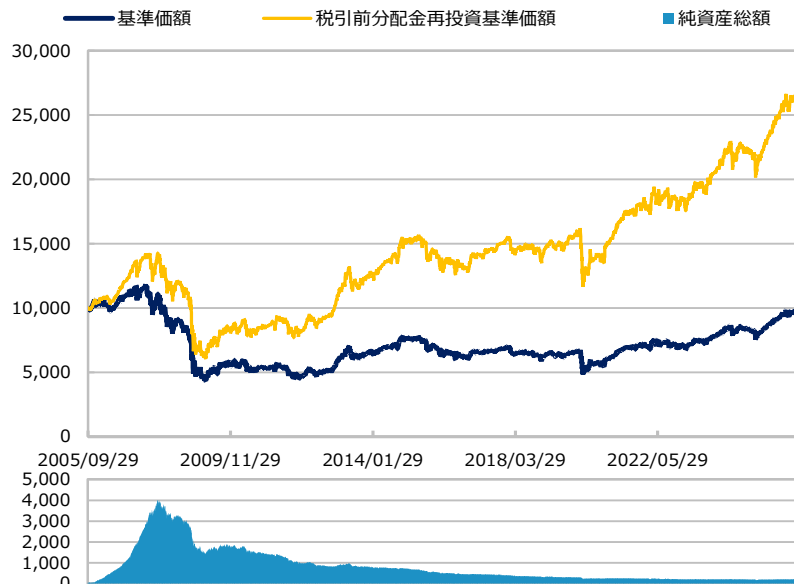
追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

ファンド設定日：2005年09月30日

日経新聞掲載名：ワンプレ

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	9,968	+240
純資産総額（百万円）	19,363	+339

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1 カ月	2026/05/29	2.6
3 カ月	2026/03/31	7.4
6 カ月	2025/12/30	7.4
1 年	2025/06/30	21.6
3 年	2023/06/30	38.1
設定来	2005/09/30	171.4

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第245期	2026/02/20	10
第246期	2026/03/23	10
第247期	2026/04/20	10
第248期	2026/05/20	10
第249期	2026/06/22	10
設定来累計		7,430

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。
過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（％）

グローバル債券マザー	32.7
グローバル株式マザー	21.7
エマージング株式マザー	10.4
グローバルリートマザー	33.5
現金等	1.7
合計	100.0

※ 組入マザーファンドの正式名称は2枚目をご覧ください。

基準価額の変動要因（円）

	計	インカム	キャピタル
債券	+23	+11	+12
株式	+53	+12	+42
リート等	+124	+14	+110
為替	+62	—	—
分配金	-10	—	—
その他	-13	—	—
合計	+240	+37	+164

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



愛称：ワンプレートランチ グローバル3資産ファンド

マンスリー・レポート

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

組入上位通貨（％）

1	アメリカドル	35.6
2	ユーロ	19.3
3	日本円	9.2
4	オーストラリアドル	5.6
5	イギリスポンド	5.0
6	中国元(オフショア)	3.9
7	香港ドル	3.8
8	シンガポールドル	3.7
9	台湾ドル	3.0
10	カナダドル	2.1

組入投資信託の騰落率（％）

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
グローバル債券マザー	1.5	2.9	3.7	13.2	19.4	100.6
グローバル株式マザー	2.9	5.8	11.6	34.0	82.6	689.3
エマージング株式マザー	1.4	18.4	18.8	45.8	80.1	165.0
グローバルリートマザー	4.4	11.3	7.4	21.7	40.5	193.2

※ グローバル債券マザーの正式名称は「G 2 0 債券マザーファンド」です。

※ グローバル株式マザーの正式名称は「グローバル好利回り株式マザーファンド」です。

※ エマージング株式マザーの正式名称は「新興国高配当株式マザーファンド」です。

※ グローバルリートマザーの正式名称は「グローバル・リート・マザーファンド」です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

外国株式市場では、米国株式市場は小幅に下落しました。米国とイランの停戦を受けて好材料の出尽くし感が広がる中、上旬は雇用統計が強い内容となり、利上げへの警戒感から下落しました。また、複数の大型IPO（新規株式公開）の観測も需給面での調整圧力となりました。その後、原油価格の下落や、スペースX社の上場完了で反発する局面もありました。しかし、中旬のFOMC（米連邦公開市場委員会）で政策金利は据え置かれたもののタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な姿勢が示唆されたことに加え、テクノロジー関連銘柄の利益確定の売り圧力もあり、上値の重い展開となりました。欧州株式市場は上昇しました。中東情勢の落ち着きによる世界的な景気持ち直し期待やエネルギー価格の下落が支援材料となりました。ECB（欧州中央銀行）の利上げ実施による影響は限定的でした。

外国債券市場では、米国の長期金利（10年国債利回り）は小幅に上昇しました。上旬は、雇用統計が市場予想を上回ったことなどを背景に、金利が上昇しました。中旬以降は米国とイランが戦闘終結の合意に至るなか、原油価格の下落とともに金利が低下しましたが、月末に労働市場の底堅さを示す指標を受けて上昇しました。FOMCでは市場予想通り政策金利の据え置きが決定されました。ユーロ圏の長期金利（ドイツ10年国債利回り）は低下しました。上旬は、先行きの利上げ観測が高まるなか金利は上昇したものの、中旬以降は米国とイランが戦闘終結の合意に至るなか、原油価格の下落とともに金利が低下しました。ECB理事会では市場予想通り政策金利の0.25%引き上げが決定されました。

グローバルリート市場は、米国では、中東情勢の緊張緩和によって原油価格が下落し、インフレ懸念が後退したことなどから上昇しました。欧州では、中東情勢の緊張緩和などを背景に上昇しました。国内では、日銀が利上げを行ったものの、不動産市況が堅調との見方などから上昇しました。

為替市場では、米ドル/円は上昇しました。米雇用指標の上振れやFOMCがタカ派的な内容と受け止められたことから、米ドル買い・円売りが優勢となりました。下旬は、日銀の追加利上げ観測の後退などから一段と円安が進みました。ユーロ/円は前月末と比較して概ね横ばいとなりました。中旬にかけて日銀総裁のタカ派的な発言や日本政府・日銀による為替介入への警戒からユーロ安・円高となりました。月末にかけては、日銀の追加利上げ観測が後退したことを受けて円安となりました。豪ドル/円は下落しました。米国と豪州の金利差縮小を予想して、豪ドル資産から米ドル資産への資金シフトが起こり、対円でも豪ドル安となりました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ファンドマネージャーコメント

＜市場見通し＞

外国株式市場について、米国株式市場は、トランプ大統領が中間選挙に向けて強硬的な対外政策を続ける可能性があり、地政学リスクが依然残っていることや、一部に割高感がみられることから、上値の重い展開が見込まれます。ただし、米国の企業業績は堅調な推移が今後も続くともみられ、徐々にレンジを切り上げる展開を予想します。欧州株式市場も、ECBや米国の金融政策に対する警戒感が当面の上値を抑える展開が見込まれます。ただし、ドイツをはじめとする欧州主要国での財政出動の効果が期待されることから、緩やかな上昇を予想します。

外国債券市場について、米国では、雇用が堅調に推移する中、インフレ率の高止まりが続くとみられ、FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げの可能性が高まっていると考えています。このような環境のなかで、長期金利は上昇に向かうと予想します。ユーロ圏では、インフレが懸念されECBの追加利上げが意識されやすい環境にあります。財政赤字の上振れも懸念されることから、長期金利は緩やかな上昇を予想します。

グローバルリート市場について、米国とイランが戦闘終結に向けた覚書に署名したことで中東情勢への懸念は後退しましたが、両国による攻撃の応酬が続いたことから、恒久的な和平合意が成立するかは不透明です。物価の上昇がみられる一方で、主要先進国の足元の景気や企業業績は概ね堅調と考えられますが、ハイテク企業などの巨額の投資に対する収益性への懸念や、株式市場の大幅な上昇を受けて高値警戒感が広がっていることなどには注意が必要です。金融政策に関しては、6月は日銀やECBが利上げを実施し、FRBは政策金利を据え置いたものの、利上げ観測が強まりました。今後も経済指標や政治情勢を注視するとともに、中央銀行の金融政策や長期金利の動向に注意が必要です。

為替市場については、米ドル/円は、米ドル高・円安を予想します。金融政策の方向性は日米ともに利上げが想定されるなか日米金利差が維持されることに加え、日本企業の対外直接投資拡大や家計の外貨建て投信購入拡大などが円安材料と見込まれます。ユーロ/円は、もみ合いの展開を予想します。日銀の追加利上げ観測が円高要因となることが見込まれる一方、ドイツなどの財政支出によりユーロ圏景気がサポートされることや、ECBの追加利上げ観測がユーロ高要因となる見通しです。豪ドル/円については、やや円安を予想します。RBA（オーストラリア準備銀行）は既に年内で3回利上げを行っており、豪ドルは金利差を背景に円に対しても強含む見通しです。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：ワンプレートランチ グローバル3資産ファンド

マンスリー・レポート

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「G 2 0 α債券マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）	
債券	99.3
先物等	0.0
現金等	0.7
合計	100.0

ポートフォリオ特性値	
クーポン（％）	2.9
残存年数（年）	7.8
デュレーション（年）	6.1
直接利回り（％）	3.0
最終利回り（％）	4.3
平均格付け	AA+

- ※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
- ※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、ファンドにかかる格付けではありません。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位通貨（％）	
1 アメリカドル	40.0
2 ユーロ	27.3
3 中国元(オフショア)	10.7
4 日本円	7.2
5 イギリスポンド	5.6

格付構成比率（％）	
AAA	73.3
AA	18.9
A	7.1
BBB	0.0
BB以下	0.0

組入上位国・地域（％）	
1 アメリカ	40.0
2 中国	10.7
3 スペイン	7.8
4 ドイツ	7.4
5 日本	7.2

種別構成比率（％）	
国債	97.1
州政府債	0.0
政府機関債	0.0
国際機関債	2.2
社債	0.0
その他	0.0

組入上位10銘柄 （組入銘柄数 103）

銘柄	通貨	国・地域	クーポン（％）	残存年数（年）	比率（％）
1 アメリカ国債	アメリカドル	アメリカ	3.500	2.5	7.8
2 アメリカ国債	アメリカドル	アメリカ	3.750	0.8	6.7
3 アメリカ国債	アメリカドル	アメリカ	3.750	4.6	4.6
4 ドイツ国債	ユーロ	ドイツ	2.200	0.7	3.3
5 アメリカ国債	アメリカドル	アメリカ	4.250	3.6	3.1
6 スペイン国債	ユーロ	スペイン	0.000	1.6	2.8
7 イギリス国債	イギリスポンド	イギリス	4.125	6.7	2.4
8 アメリカ国債	アメリカドル	アメリカ	3.750	6.3	2.4
9 スペイン国債	ユーロ	スペイン	0.500	3.8	2.2
10 ドイツ国債	ユーロ	ドイツ	2.500	8.6	2.2

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



※ このページは「G20α債券マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

（債券）先進国の債券市場はまちまちな動きとなりました。米国では、米国とイランの戦闘終結の合意を受けた原油価格の下落が金利低下の要因となった一方、年内の利上げが意識されたFOMC（米連邦公開市場委員会）や、労働市場の底堅さなどが金利上昇要因となり一進一退の推移となりました。一方、豪州では中銀の利上げ打ち止めへの思惑などが意識され、金利低下するなど、国や地域間で異なる動きとなりました。

（為替）先進国の投資通貨も対円でまちまちな動きとなりました。米ドルは、米国の底堅い経済指標やタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的なFOMCを背景に対円で上昇しました。一方、豪ドルは中銀の利上げに慎重な姿勢から対円では下落しました。

（新興国市場）新興国の債券市場と為替市場は概ね堅調な動きとなりました。米国とイランの戦闘終結合意を好感する動きから多くの国で債券や為替は上昇しました。ただし、インドネシアでは、中銀の独立性に疑念が生じる状況から資金流出が継続しており、債券や為替が下落するなど、一部の国では異なる動きもみられました。

＜運用経過＞

投資対象国と国別配分・通貨配分などについて、各国の経済・政治などの状況や、金利水準、市場での流動性、通貨分散などを勘案し運用方針を決定しました。

＜市場見通しおよび今後の運用方針＞

（債券）先進国の債券市場は、原油価格がピークアウトしたことはサポート材料になるとみられます。ただし、今後はイランの核開発をめぐる交渉やホルムズ海峡の航行料をめぐる対立など、本格正常化までは時間を要すると想定されます。また、グローバルには供給ひっ迫による生産者物価から消費者物価へのインフレ波及への警戒で多くの中銀が利上げ姿勢を崩していないため、長期金利は高止まりが続くと予想します。

（為替）先進国の為替市場は、米国が利上げする姿勢を強めていることや米経済も堅調に推移していることから、米ドル高圧力が続きやすいと予想します。

（新興国市場）原油価格の下落は国ごとで影響が異なり、原油輸入依存度の高い新興国には恩恵をもたらすものの、原油輸出国にはネガティブ要因となります。それに加えて、FRB（米連邦準備制度理事会）の利上げ姿勢を背景とした米ドル高圧力が新興国市場にとって不安定要因となるため、引き続き、新興国市場の中でも選別的かつ慎重にリスクをとっていく方針です。

以上の見通しを背景に、今後も安定した収益の確保をめざすべく機動的なファンド運営を行います。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：ワンプレートランチ グローバル3資産ファンド

マンスリー・レポート

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「グローバル好利回り株式マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

株式	97.5
先物等	0.0
現金等	2.5
合計	100.0

ポートフォリオ特性値（％）

配当利回り	3.3
-------	-----

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 配当利回りは予想配当利回りです。

※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位国・地域（％）

1 アメリカ	36.5
2 スペイン	11.7
3 フランス	11.1
4 日本	8.0
5 オーストラリア	6.2

組入上位通貨（％）

1 アメリカドル	39.9
2 ユーロ	31.2
3 日本円	8.0
4 オーストラリアドル	6.2
5 シンガポールドル	3.9

組入上位業種（％）

1 銀行	17.3
2 商業・専門サービス	10.2
3 公益事業	9.1
4 金融サービス	8.5
5 エネルギー	8.3

※ 業種は国内株式：東証33業種、外国株式：GICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 49）

銘柄	国・地域	業種	比率	配当利回り
1 DBSグループ	シンガポール	銀行	3.9	5.1
2 B B V A	スペイン	銀行	3.8	4.6
3 イベルドローラ	スペイン	公益事業	3.4	3.3
4 バンク・オブ・ニューヨーク・メロン	アメリカ	金融サービス	3.3	1.6
5 BAWAGグループ	オーストリア	銀行	3.0	3.2
6 オリックス	日本	その他金融業	2.8	3.3
7 MSCI	アメリカ	金融サービス	2.8	1.5
8 ガズトランスポール・エ・テクニガス	フランス	エネルギー	2.7	5.0
9 バンク・オブ・アメリカ	アメリカ	銀行	2.5	2.1
10 トタルエナジーズ	フランス	エネルギー	2.5	5.5

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは「グローバル好利回り株式マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

米国株式市場は小幅に下落しました。米国とイランの停戦を受けて好材料の出尽くし感が広がる中、上旬は雇用統計が強い内容となり、利上げへの警戒感から下落しました。また、複数の大型IPO（新規株式公開）の観測も需給面での調整圧力となりました。その後、原油価格の下落や、スペースX社の上場完了で反発する局面もありました。しかし、中旬のFOMC（米連邦公開市場委員会）で政策金利は据え置かれたもののタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な姿勢が示唆されたことに加え、テクノロジー関連銘柄の利益確定の売り圧力もあり、上値の重い展開となりました。

欧州株式市場は上昇しました。中東情勢の落ち着きによる世界的な景気持ち直し期待やエネルギー価格の下落が支援材料となりました。ECB（欧州中央銀行）の利上げ実施による影響は限定的でした。

（為替）米ドル/円は上昇しました。米雇用指標の上振れやFOMCがタカ派的な内容と受け止められたことから、米ドル買い・円売りが優勢となりました。下旬は、日銀の追加利上げ観測の後退などから一段と円安が進みました。

ユーロ/円は前月末と比較して概ね横ばいとなりました。中旬にかけて日銀総裁のタカ派的な発言や日本政府・日銀による為替介入への警戒からユーロ安・円高となりました。月末にかけては、日銀の追加利上げ観測が後退したことを受けて円安となりました。

＜運用経過＞

当ファンドは、景気変動の影響を受けにくい業種に軸足を置き、減配リスクを考慮した運用を行いました。6月は、設備投資のピークアウトによって今後のフリーキャッシュフロー拡大と安定増配が見込まれる米国の廃棄物処理企業や、中東の地政学リスクが過度に織り込まれていると判断したスペインの空港運営企業を追加購入しました。一方、イラン情勢の鎮静化後に原油の供給過剰リスクに鑑み、米国のエネルギー企業を売却しました。

＜市場見通し＞

米国株式市場は、トランプ大統領が中間選挙に向けて強硬的な対外政策を続ける可能性があり、地政学リスクが依然残っていることや、一部に割高感がみられることから、上値の重い展開が見込まれます。ただし、米国の企業業績は堅調な推移が今後も続くと考えられ、徐々にレンジを切り上げる展開を予想します。

欧州株式市場も、ECBや米国の金融政策に対する警戒感が当面の上値を抑える展開が見込まれます。ただし、ド

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは「グローバル好利回り株式マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

イツをはじめとする欧州主要国での財政出動の効果が期待されることから、緩やかな上昇を予想します。

＜今後の運用方針＞

当面の株式市場は、情報技術など一部のセクターだけではなく、より広範囲なセクターにおいて業績・配当面で上方修正の余地がある銘柄の循環物色が続く可能性があります。

当ファンドは、過去の実績や経営陣の手腕等により、増配に必要な利益とキャッシュフローを継続的に増大させてきた「質の高い企業」の中から、主として足元の配当利回りと今後の配当成長性に着目し、財務の安定性や流動性を十分に考慮したうえで、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資します。また、企業の収益動向や配当政策などの変化に注目し、今後の継続的な増配が見込める企業へも投資します。引き続き、以下の3点を重視します。

1. 「経営実績や経営陣などの「会社の質」と配当実績が優れていること」
2. 「数年先までの成長持続性、売上やキャッシュフロー成長の確実性が期待されること」
3. 「今後の資本政策、特に配当を含む株主還元のスタンスが明確なこと」

「好配当株」企業への投資は、足元の相対的な配当利回りが高いだけではなく、今後、長期にわたり増配が続くという、「配当の成長」も重要です。優れた経営を実践している「質の高い」企業は配当政策など株主還元への姿勢も明確であり、投資家は定期的に配当収入を受け取りながら中長期の企業価値の成長（キャピタルゲイン）からも恩恵を受けることができます。

昨今の投資環境の変化を受けて、「好配当株」投資においても、今後の配当成長率と比較して足元の配当利回りが相対的に高い銘柄がより選好される可能性があります。当ファンドは、引き続き、配当利回りと配当成長率のバランスを重視した銘柄選択による安定的なパフォーマンスの実現を目指してまいります。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：ワンプレートランチ グローバル3資産ファンド

マンスリー・レポート

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「新興国高配当株式マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

株式	93.5
先物等	0.0
現金等	6.5
合計	100.0

ポートフォリオ特性値（％）

配当利回り	4.1
-------	-----

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 配当利回りは予想配当利回りです。

※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位国・地域（％）

1 台湾	27.6
2 ケイマン諸島	14.1
3 中国	12.5
4 韓国	7.1
5 インド	5.1

組入上位通貨（％）

1 台湾ドル	28.8
2 香港ドル	23.8
3 韓国ウォン	7.1
4 アメリカドル	6.3
5 インドルピー	5.1

組入上位業種（％）

1 銀行	19.5
2 テクノロジ・ハードウェア・機器	14.2
3 半導体・半導体製造装置	7.7
4 耐久消費財・アパレル	6.1
5 不動産管理・開発	5.3

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 68）

銘柄	国・地域	業種	比率	配当利回り
1 アクター・グループ	台湾	資本財	4.1	3.4
2 中国建設銀行	中国	銀行	4.1	5.6
3 緯穎科技	台湾	テクノロジ・ハードウェア・機器	3.5	4.2
4 ホンハイ精密	台湾	テクノロジ・ハードウェア・機器	3.4	3.4
5 JDドットコム	ケイマン諸島	一般消費財・サービス流通・小売り	3.1	3.8
6 CTBCフィナンシャル・ホールディング	台湾	銀行	3.0	3.8
7 ASEテクノロジー・ホールディング	台湾	半導体・半導体製造装置	3.0	1.4
8 招商銀行	中国	銀行	3.0	5.2
9 広東インベストメント	香港	公益事業	2.4	6.0
10 リアルテック・セミコンダクター	台湾	半導体・半導体製造装置	2.4	3.3

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは「新興国高配当株式マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

6月の新興国株式市場は、下落しました。

米国株式市場は小幅に下落しました。米国とイランの停戦を受けて好材料の出尽くし感が広がる中、上旬は雇用統計が強い内容となり、利上げへの警戒感から下落しました。また、複数の大型IPO（新規株式公開）の観測も需給面での調整圧力となりました。その後、原油価格の下落や、スペースX社の上場完了で反発する局面もありました。しかし、中旬のFOMC（米連邦公開市場委員会）で政策金利は据え置かれたもののタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な姿勢が示唆されたことに加え、テクノロジー関連銘柄の利益確定の売り圧力もあり、上値の重い展開となりました。

新興国株式市場は下落しました。

アジアの新興国市場では、台湾を中心に、総じて上昇しました。台湾は、需給逼迫から主要製品に対する値上げが期待された電子部品メーカーや半導体向け電子材料メーカーなどが牽引し、上昇しました。また、市場の事前予想を下回る経済指標などを受け、利上げ観測が後退したオーストラリアが上昇したほか、インド政府やRBI（インド準備銀行）が発表した通貨安対策などを受けインドルピーが底堅く推移する中、インドは上昇しました。一方で、韓国は、5月の輸出が市場の事前予想を上回ったことや、米半導体大手との協業が期待された企業の株価が上昇したことなどが好感されたものの、金融監督当局がレバレッジ（他人資本を活用して利益率を高めること）型ETF（上場投資信託）に対する懸念を示したとの報道や米国のAI（人工知能）企業のIPOが先送りされるとの報道などが嫌気され、月を通じてみると概ね横ばいとなりました。また、中国の小売売上高が市場の事前予想を下回ったことや中国政府が対外資産への投資規制を強めていると報道されたことなどが嫌気され、中国、香港市場は大きく下落しました。

アジア以外の地域では、USMCA（アメリカ・メキシコ・カナダ協定）の更新を巡る不透明感からメキシコや、原油価格の下落や財政懸念を受けたブラジルが軟調となりました。

※各国の上昇下落のコメントはMSCI指数、ローカル通貨をベースに記載しています。

＜運用経過＞

6月は、オンラインゲームなどのコンテンツに強みを持つ、ネットイースや政治の安定化に伴い、EU（欧州連合）からの投資促進から恩恵を受ける、OTPバンクなどを購入しました。一方、インドネシアの大手銀行であるバンク・マンディリなどを売却しました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは「新興国高配当株式マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場見通し＞

新興国株式市場は、情報技術関連の良好な業績見通しを背景に、高値圏での推移を見込みます。

今後も主要な新興国では利下げを行うことが予想されます。利下げによる景気回復期待に加えて、AIの浸透が中長期的に経済成長や企業収益の改善につながるとの期待を背景にテクノロジー産業への投資や生産が拡大していることから、底堅い推移が見込まれます。トランプ政権の各種政策や、欧米と中国の通商問題、中東や東アジアなどの地政学リスクの不透明感は残りますが、グローバル投資家の米国株離れに伴う投資資金流入なども期待されることから、新興国株式を取り巻く投資環境、投資家センチメント（心理）は徐々に改善すると思われます。

＜今後の運用方針＞

以上のような不透明な投資環境の下では、収益性が高く、キャッシュフローの安定成長が期待できる優良株が選好される傾向があります。当ファンドは、引き続き配当利回り水準と配当成長性に注目し、利益の質や株主還元政策などにも留意してまいります。また、相対的に株価の出遅れ感があるアジアの組入比率を高めに維持しつつ、ファンド全体の株式組入比率は6月末と同程度とします。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：ワンプレートランチ グローバル3資産ファンド

マンスリーレポート

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「グローバル・リート・マザーファンド」について、BNPパリバ・アセットマネジメント・グループから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

資産構成比率（％）

リート	97.5
先物等	0.0
現金等	2.5
合計	100.0

ポートフォリオ特性値（％）

配当利回り	4.5
-------	-----

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 配当利回りはBloombergのデータを基にした直近配当利回りです。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位国・地域（％）

1 アメリカ	39.4
2 日本	15.1
3 オーストラリア	10.6
4 シンガポール	8.2
5 イギリス	7.2

組入上位通貨（％）

1 アメリカドル	39.4
2 日本円	15.1
3 オーストラリアドル	10.6
4 ユーロ	9.8
5 シンガポールドル	8.2

組入上位セクター（％）

1 小売り	30.1
2 複合	22.6
3 産業用施設	18.8
4 オフィス	9.6
5 ヘルスケア	9.1

※ セクターはGPR社による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 52）

銘柄	国・地域	セクター	比率	配当利回り
1 サイモン・プロパティー・グループ	アメリカ	小売り	7.0	4.0
2 ドリーム・インダストリアル・リート	カナダ	産業用施設	4.7	5.0
3 リアルティ・インカム	アメリカ	小売り	4.2	5.2
4 キャピタランド・インテグレートッド・コマーシャル	シンガポール	複合	3.3	3.4
5 センター・グループ	オーストラリア	小売り	3.3	4.6
6 クレピエール	フランス	小売り	3.2	5.2
7 セグロ	イギリス	産業用施設	3.2	3.6
8 エクストラ・スペース・ストレージ	アメリカ	産業用施設	3.0	4.5
9 オリックス不動産投資法人	日本	複合	2.8	5.0
10 ユナイテッド・アーバン投資法人	日本	複合	2.8	5.7

※ 配当情報がない銘柄は、配当利回りを「－」と表示しています。

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは「グローバル・リート・マザーファンド」について、BNPパリバ・アセットマネジメント・グループから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

6月の主な地域・国別の市場動向は、以下の通りです。（GPRグローバル・ハイ・インカム・リート・インデックス（現地通貨、月末前営業日ベース）、以下同様）

米国リート市場は、中東情勢の緊張緩和によって原油価格が下落し、インフレ懸念が後退したことなどから上昇しました。

カナダ・リート市場および欧州リート市場は、中東情勢の緊張緩和などを背景に上昇しました。

英国リート市場は、米大手物流リートによる英同業リートの買収提案などを好感して上昇しました。

豪州リート市場は、長期金利の低下などを好感して上昇しました。

シンガポール・リート市場は、中東情勢の緊張緩和などを背景に上昇しました。

香港リート市場は、中国の景気減速懸念などを背景に下落しました。

Jリート市場は、日銀が利上げを行ったものの、不動産市況が堅調との見方などから上昇しました。

為替市場では、対円で米ドルなどが上昇した一方、豪ドルなどが下落し、まちまちの動きとなりました。

＜運用経過＞

当月は、価格が調整したことで割安感が強まった日本のジャパンリアルエステイト投資法人や、ショッピングモールの買収が利益成長につながると予想して米国のメイスリッチを新規購入しました。一方、資金需要への対応として、当面は支援材料が少ないと予想されるオーストラリアのホームコ・デイリー・ニーズ・リートや、直近のアウトパフォームにより割高感が強まった米国のヘルスケア・リアルティ・トラストを全売却しました。

＜市場の見通し＞

米国とイランが戦闘終結に向けた覚書に署名したことで中東情勢への懸念は後退しましたが、両国による攻撃の応酬が続いたことから、恒久的な和平合意が成立するかは不透明です。物価の上昇がみられる一方で、主要先進国の足元の景気や企業業績は概ね堅調と考えられますが、ハイテク企業などの巨額の投資に対する収益性への懸念や、株式市場の大幅な上昇を受けて高値警戒感が広がっていることなどには注意が必要です。金融政策に関しては、6月は日銀やECB（欧州中央銀行）が利上げを実施し、FRB（米連邦準備制度理事会）は政策金利を据え置いたものの、利上げ観測が強まりました。今後も経済指標や政治情勢を注視するとともに、中央銀行の金融政策や長期金利の動向に注意が必要です。ポートフォリオの運用にあたっては、財務健全性が高く、利益成長が見込まれる質の高い銘柄に着目しながら、慎重なスタンスで臨む方針です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ファンドの特色

1. 世界の債券、株式、不動産投資信託（リート）の3つの異なる資産に分散投資を行い、配当等収益の確保と信託財産の安定した成長を目指します。
 - 各資産は、好利回りに着目して運用します。
 - 実際の運用は、マザーファンドへの投資を通じて行います。
 2. 債券、株式、リートへの投資割合は、1：1：1を基本とします。
 3. 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
 4. 毎月決算（原則として毎月20日、休業日の場合は翌営業日）を行い、分配方針に基づき分配を行います。
 - 原則として安定した分配を目指します。
 - 分配金額は、委託会社が分配方針に基づき、基準価額水準、市況動向等を考慮し決定します。※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
※「安定した分配を目指します。」としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額的水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。

■ 不動産投資信託（リート）に関するリスク

【リートの価格の下落は、基準価額の下落要因です】

リートの価格は、不動産市況や金利・景気動向、関連法制度の変更等の影響を受け変動します。また、リートに組み入れられている個々の不動産等の市場価値や賃貸収入、個々のリートの事業活動や財務状況等によっても価格が変動します。これらにより、ファンドが組み入れているリートの価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

投資リスク

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。



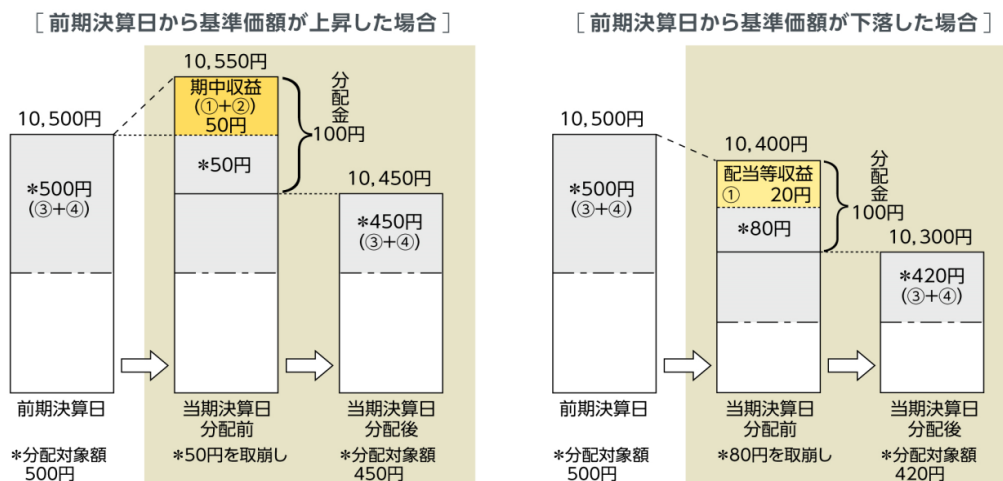
分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

〔計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合〕



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。

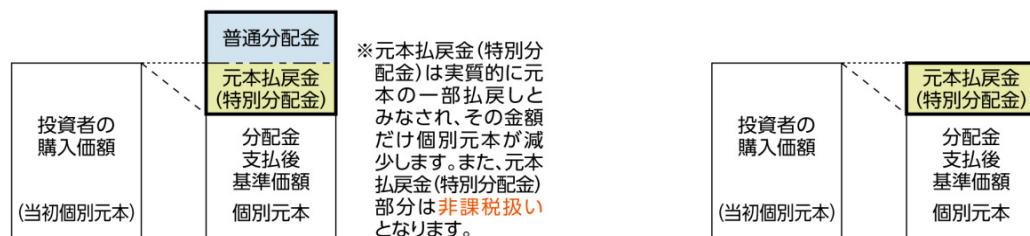
分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※ 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

〔分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合〕

〔分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合〕



普通分配金：個別元本（投資者のファンド購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2005年9月30日設定）

決算日

毎月20日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの対象ではありません。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。



ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に3.30%（税抜き3.00%）を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.25%を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に年1.54%（税抜き1.40%）の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
ファンドが組み入れるリートの銘柄は将来にわたって固定されているものではなく、ファンドの投資者が間接的に支払う費用として、これらリートの資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等の上限額または予定額を表示することはできません。
また、以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※ 上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター：0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。
投資顧問会社	マザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、信託財産の運用を行います。 BNPパリバ・アセットマネジメント・グループ

販売会社

販売会社名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会 第二種	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本S T O 協会	備考
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第3283号	○	○	○			
池田泉州 T T 証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第370号	○					
S M B C 日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○	○	
株式会社 S B I 証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○	○	
F F G 証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長（金商）第5号	○	○				※1
O K B 証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第191号	○					※1
きらぼしライフデザイン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第3198号	○					
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2938号	○					※1
十六 T T 証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第188号	○					※1
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第108号	○	○	○	○	○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○	○	
西日本シティ T T 証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長（金商）第75号	○					
浜銀 T T 証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第1977号	○					※1
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第20号	○					※1
ほくほく T T 証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長（金商）第24号	○					
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長（金商）第1号	○					※1
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○			○		
三木証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第172号	○					
三菱 U F J e スマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○	○	
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○					
株式会社あおぞら銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第8号	○			○		※1
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第43号	○			○		※2 ※1
株式会社 S B I 新生銀行（S B I 証券仲介）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○			○		※2 ※3
株式会社愛媛銀行	登録金融機関	四国財務局長（登金）第6号	○					※1
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第3号	○			○		※1
株式会社関西みらい銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第7号	○			○		
株式会社北日本銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第14号	○					※1
株式会社紀陽銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第8号	○					
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第53号	○			○		
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長（登金）第6号	○					
株式会社群馬銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第46号	○			○		

備考欄について

※1：新規の募集はお取り扱いしていません。※2：ネット専用※3：委託金融商品取引業者 株式会社 S B I 証券

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本S T O協会	備考
株式会社大光銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第61号	○				※1
株式会社第四北越銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第47号	○		○		
株式会社南都銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第15号	○				※2
株式会社八十二長野銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第49号	○		○		
Pay Pay 銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○		○		
株式会社北都銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第10号	○				
株式会社北洋銀行	登録金融機関	北海道財務局長（登金）第3号	○		○		
株式会社北洋銀行（仲介）	登録金融機関	北海道財務局長（登金）第3号	○		○		※4
株式会社みなと銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第22号	○		○		
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第38号	○				※1
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第41号	○				※1
株式会社U I 銀行（仲介）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第673号	○				※2 ※5
京都信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第52号	○				

備考欄について

※1：新規の募集はお取り扱いしていません。※2：ネット専用※4：委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社※5：委託金融商品取引業者 きらぼし
ライフデザイン証券株式会社

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。